

No.207

令和元年7月19日  
 鹿児島県立甲南高等学校  
 鹿児島市上之園町23番地1  
 TEL (099) 254-0175  
 題字 永野弘行 (本校教諭)

## 将来を見据えて

教頭 嶋田 優一



「僕のライバル、インド人！」  
 10年ほど前に、授業中の気怠い空気を打破するためによく生徒に発していた言葉だ。総務省の調査によると、その頃の日本は少子高齢化の進行により、生産年齢人口が1997年、総人口が2008年をピークに減少に転じていた。「生徒もしっかり勉強しないと、将来、外国人に仕事を奪われてしまう」と漠然とした危機感を感じていた言葉だった。

と同時に、当時IT先進国と言われ、理系分野や語学力にたけたインド人の日本への就労増加が話題になっていた。私自身も授業を分かりやすく、しっかり行わないと、化学教師という職業を奪われてしまうという危機感と自戒を込めてのことだった。  
 先日、修学旅行で関東を訪れた。数年前から出張等で訪れる度に感じていたが、今回

は外国人観光客のみならず、外国人労働者の多さに改めて驚いた。2年生は、宿泊ホテルの従業員、通勤中のサラリーマン、原宿竹下通りの客引き等の外国人労働者を見て、どんな事を感じただろう。

昨年12月8日に、外国人労働者の受け入れを拡大する改正出入国管理法が成立し、4月1日から施行された。人手不足解消のため、一定の技能を持つ外国人に新在留資格「特定技能」が与えられるという。これまで、就労のための在留資格が認められていたのは大学教授や医師といった高度な専門的分野に限られていたが、今回の改正で、専門的な知識などが必要としない単純労働分野でも「労働者」として受け入れることになる。厚生労働省によると、平成30年10月現在、外国人労働者数は約146万人であるが、今回の法改正で、今後5年間で最大約34万5千人の受け入れを見込んでいる。  
 加工食品製造会社で働く私の友人は、外国人労働者を雇う上で困難を感じることは「言葉」だという。上手くコミュニケーションがとれない

## 新しい時代を作る人間として

### ～創立記念講演会 (令和元年第2回甲南塾)～

5月24日(金)、創立記念式典が行われた後、創立記念講演会(令和元年第2回甲南塾)が開催されました。講師に、甲南17期で鹿児島の歴史研究の第一人者として御高名の原口泉先生をお招きし、「薩摩から見た世界史～平成から令和へ～」という演題で御講演いただきました。

原口先生は、現在志學館大学人間関係学部教授及び、鹿児島県立図書館長の他、鹿児島大学名誉教授、農学部客員教授を務めていらっしゃいます。

またNHK大河ドラマ「篤姫」「西郷どん」等の時代考証を担当されるなど多方面で活躍されています。

御講演では、先生のお人柄あふれる優しくパワフルな語り口で、島津義弘はじめ、歴代の島津藩主、木曾川・長良川・揖斐川の治水を行った薩摩義士、小松帯刀・西郷隆盛・大久保利通ら明治維新の志士、「カリフォルニアワイン王」長澤鼎といった先人・偉人を挙げられ、彼らが人間として何を志したか、困難にどう立ち向かったか、どう生きたか、そして現代に生きる我々はそこから何を学ぶべきかを説かれました。先生の「できるかできないかではなく、やるべきかやらざるべきかである」という言葉に多くの生徒が感銘を受け、困難に立ち向かう強さや、人のために尽くすという美徳を持って生きていきたいと強く感じたようです。

生徒の感想には、「周囲の意見に流されて行動するのではなく、何をすべきなのかを自分に問いかけながら令和の時代を生きていきたいと思った」「多くの偉人たちのように失敗を恐れず、人のために尽くせる人間になりたい」「新しい時代を創っていく人間の一人であることを改めて自覚することができた」等、新しい時代の新しい甲南高校生として頼もしい意見が数多く見られました。今回の御講演は、生徒たちにとって学ぶことへの意欲を高めるとともに、今後の生き方・在り方に大きな示唆を頂く貴重な機会となりました。



いと、作業効率さが下がり、品質低下や怪我のリスクが高まる。「日本人が従事しながらないので仕方がない。」と嘆く。一方、農業に従事する別の友人は、「農業で働く人は60代が若手。その中で外国人労働者は、勤勉で体力もあり、非常にありがたい。」と話す。雇用問題一つとっても、業種によって状況が異なるように

今、将来の変化を予測する

ことが困難な時代だと言われている。そんな中でも、自分の未来に向けて、自らの人生をどう拓いていくのか、その力を養う必要がある。甲南高校が課題研究に取り組んでいる理由もそこにある。甲南高校には、学ぶ環境が整っている。その環境の中で、何事にも前向きに元氣よく取り組んで欲しい。失敗してもいい、甲南高校にはお互いを認め合える、高め合える、支え合える、かな。

仲間がいる。将来を見据えて、色々な事を考える、チャレンジする夏にして欲しい。頑張れ甲南生!!

修学旅行最終日に、ある先生と最後の介護について話した。「我々の老後、介護してくるのはどんな人達なんですかね。」「いやいや、教頭先生、人じゃないですよ、ロボットですよ。」「…」予測不能な時代、我々はどう生きる